

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 大垣特別支援学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和6年12月11日(火) 9:30~11:30
- 3 開催場所 大垣特別支援学校 音楽室
- 4 参加者

会長	後藤 悦子	障がい者相談支援事業所ゆう 所長
副会長	伊藤 三枝子	清流の国ぎふ女性防災士会 会長
委員	岡田 浩	大垣共立銀行 江並支店 支店長【欠席】
	加藤 千恵美	大垣市くすのき苑 所長
	酒井 千裕	大垣特別支援学校PTA役員
	西山 葉子	大垣公共職業安定所 統括職業指導官【欠席】
	国枝 由道	上笠自治会 会長
	山口 敏文	大垣水都ライオンズクラブ 前会長
	山田 晃嗣	情報科学芸術大学院大学 教授
学校側	田中 久仁子	校長
	高橋 明	事務部長
	高木 靖	小中学部教頭
	横山 浩明	高等部教頭
	若原 真智	小学部主事
	肥田 幸宗	中学部主事
	吉野 和博	高等部主事
	前田 教嗣	教務主任

5 会議の概要(協議事項)

(1) 「おおとばフェスタ」の動画視聴、各学部の取組みについて

- 意見1 プレイルームでの発表は児童と近い距離であり、表情が分かって非常に良かった。作業学習のビデオ紹介も良かった。作業のプロセスが分かると良い。教師も一緒に販売に取り組むことで、同じ仲間と感ずることができたと思う。
- 意見2 家族も日頃は見られない発表の姿を見られて感動されたと思う。
- 意見3 発表を観て心を揺さぶられた。その中には先生方の多くの知恵と工夫があったと思う。

(2) 授業参観について 小学部：生活単元学習、中学部：星和中学校交流、高等部：自立活動

- 意見1 高等部の生徒が学校周辺を走っていることは地域自治会も理解していることが分かり、外部への発信が積極的にできている。
- 意見2 授業参観をして、先生が児童生徒にとって身近な存在であると感じた。先生方が良

く支援していると感じた。

意見3 中学校との交流など、このような機会を増やして欲しい。

(3) 指導・高評

意見1 各学部の様子から、先生と生徒の関係が密接であることが感じられた。これからも継続して欲しい。

意見2 小学部から高等部までの一貫教育で徐々に成長する様子が見えた。私はスポーツ少年団の指導しており、常々、次の5つを大切にと言っている。それらは、「自分」、「仲間」、「相手」、「決め事やルール」、「ジャッジメント」である。その中でも自分を大切にすることを子どもたちに教えていくことを保護者にも発信している。

意見3 星和中との交流も良かった。それぞれの学校が同じ曲を共同で歌ったり、同じものを作ったりする交流もできると良い。

意見4 近隣の小学校ではインフルエンザが流行し始めたので気をつけてほしい。

意見5 おおとばフェスタには来ることができなかったが映像を見て来たかったと思った。その中で、中学部は得意なことを生かして自分の役割にしていた。高等部の作業班紹介の突撃取材が良かった。これらのことは働くことに喜びを感じ、次につながるといった。学校間交流では今後リラックスしてお互いを高め合えると思うので、継続してほしい。

意見6 学校安全の面から言うと誰が子どもの命を守るのだろう。守らないといけないことが最低限ある。校訓「強く、明るく、仲良く」のベースは安全の上になりたっている。その視点について学校全体で考え、安心安全な学校経営を行ってほしい。

意見7 同世代の交流を学生のうちにやっておく意味は大きい。こういった事を繰り返すことによって共生社会に繋がる。入学式では座っていられなかった子が座って授業を受けていたことなど、成長の過程を見られた。

6 会議のまとめ

- ・コロナウイルス感染症による制限が緩和され、様々な学校行事を行うことができるようになってきた。児童生徒に役割をもたせながら、段階的に支援していくことが大切である。
- ・命を守る教育を充実するように、改めて取り組んでいく必要がある。
- ・共生社会を目指し、地域への情報発信を積極的に行っていく。